

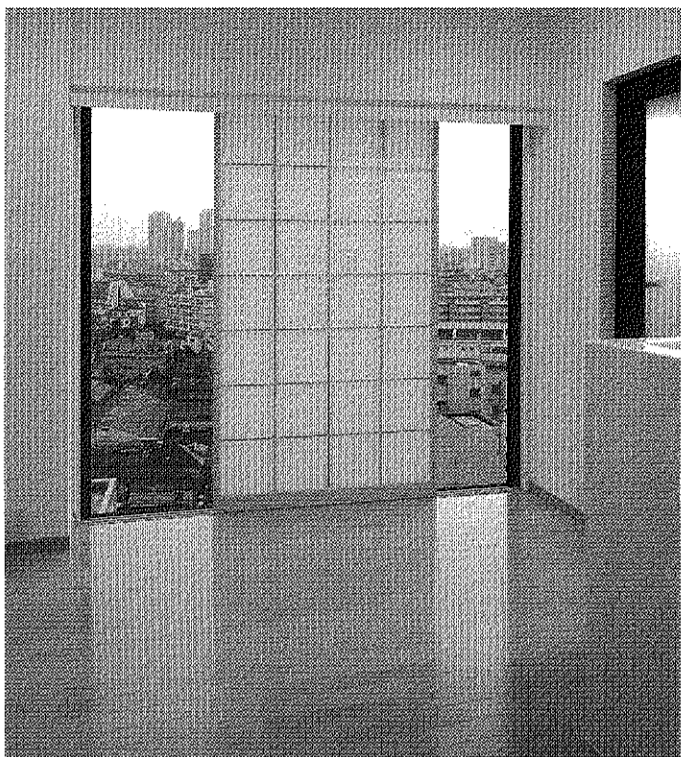
# セルクル落合

# 一枚窓からの風景に圧倒

# 人気物件① 秘密を探る

## リビングから見える景色に障子の意外性が安らぐ空間を演出

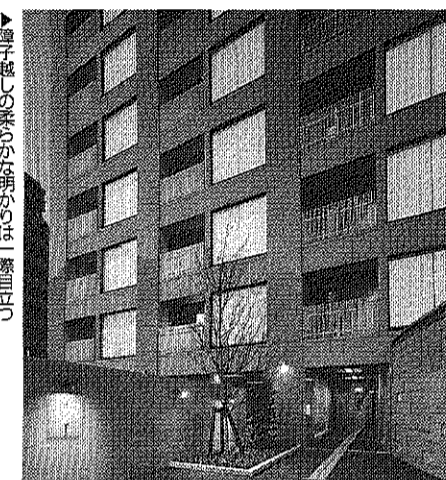
リビングから見える景色で部屋を選ぶ入居者も多いのではないだろうか。「セルクル落合」は南向きの窓に高さ、幅ともに約2・1mの一枚窓を設けたことで開放感を演出した。早稲田通りを前にし目の前に遮る建物がないため、新宿の高層ビルも遠くに望むことができる。インパクトのある景色が入居の決め手につながり人気を博している。



▲特注の障子がアクセントに



▲玄関に手すりを持たせたユニバーサルデザイン

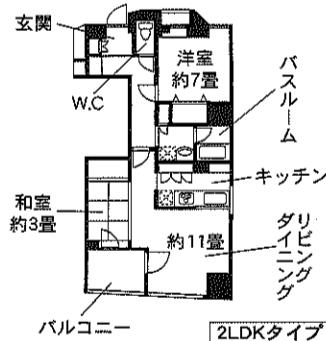
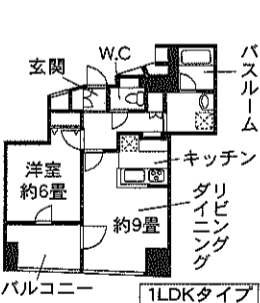


▲障子風の窓が外観のアクセントに



▲窓から望む夜景

### 間取り図



### 将来性見込み高齢者向けの対応デザイン



環境建築設計 (東京都渋谷区) 代表 宮坂正寛氏

障子を入れること、和のテイストを取り込んで、フレンドとは違、むことで安らぐ空間をつくり出しました。単なるコンクリートと差別化を図り、打ち放しだけのデザインにするのではなく、象徴ともいえ、誰もが障子のアクセントや将来性を考えたユニバーサルデザインを盛り込みながら夜間帯に親しむアイテムです。和室でない障子に対してなじみがない方もいるようですが、幅広く設定できましが、あえてリビングにた。

### 冷たい印象のコンクリート打ち放しを

### 採光と白い壁で温かなイメージに一変

リビングのドアを開けると目の前に広がる景色に圧倒される。高さに無機質にまどめるのではなく、一枚窓が南向きに配置されておとでファミリー層にも好評を得て、新宿の高層ビル群の景観が望めるからだ。ビルなど周囲を直接遮る建物がない立地からの景観を、額縁に飾られた一枚の写真のように見立てる工夫だ。大きな一枚窓は採光性が抜群であり、部屋の中は明るいという印象を感じる。

「自宅のリビングにいたがこんな景色が見られるぜいたくさひかれて入居を決めました」という声も多かったほど入居者にも好評の眺めだ。交通量の多い早稲田通りを前にするため目隠しの役割には障子をしてつらえた。そこには2つの狙いがある。一つはリビングに障子、という意外な組み合わせでも、日本人になじみ深い和のテイストを盛り込むことでフレンドとは違、安らぎを与えること。そしてもう一つは無機質で閉塞(へいそく)感を与えがちなコンクリート打ち放しの外観のイメージと対比させるため内装は、柔らかな光を演出する障子、白い壁で温かなイメージをつくり出したことだ。

カーテンやブラインドでは出せない落ち着いた空間は、意外に単身社会人やDINKSに受けたようだ。同様に外国人の入居者にも障子のある空間はとて喜ばれているという。和のテイストは1階エントランスにある坪庭にも生かされている。白い玉砂利と竹で構成され、わびさびの風情を感じるデザイン

### 物件データ

- 物件名: セルクル落合
- 所在地: 新宿区上落合
- 竣工年月: 平成18年12月
- 構造体: RC造・14階
- 部屋数: 45戸
- 家賃: 12万8000円~20万2000円
- 部屋面積: 43.52m<sup>2</sup>~58.68m<sup>2</sup>
- 工事費: 7億350万円